

令和 2 年度 F D 実施報告書

学部・学科	教育学部・児童幼児教育学科
F D 取り組みへの理念・目標 教育学部教員は学部教育目標を達成するために、自主的に教育と研究の向上を行う。併せて、学科会議前に定例 F D 研修会を開催して、組織的な教育と研究の質的向上に取り組む。 具体的な実施目標は、第 7 次中期総合計画の教育計画に基づき、(1)「次世代の教職・保育職への就職に向けた学生の自律的学修行動と態度の育成」(重点取組項目)、(2)「初等英語および「内なる国際化」に向けた英語教育の充実化」、(3)「研修会講師、助言者・指導者としての地域ニーズへの対応」(重点取組項目)である。	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
1 回目 (4 月 2 日)	テーマ「令和元年度 F D 実施報告について」 令和元年度に実施した F D 研修会を総括し、学部内での共通理解を図った。(話題提供：学部 F D 委員会)
2 回目 (5 月 7 日)	テーマ「16E の就職状況から見る教職指導・保育職指導の課題」 学生の就職状況等をふまえ今年度の教職指導・保育職指導の状況と課題を把握し、次年度に向けた指導の方針について、学部としての共通理解を図った。(話題提供：学部教職課程委員会、学部保育課程委員会、就職委員会、連携推進部)
3 回目 (6 月 6 日)	テーマ「特別対策期間中のオンライン授業の試み」 COVID-19 による緊急事態宣言中に教育学部教員が実施したオンライン授業例について話題を提供し、6 月以降の「原則 UNIPA 配信による WEB 授業」という方針下での授業実施方法についての工夫を共有した。(話題提供：学部教員 3 名)
4 回目 (7 月 2 日)	テーマ「次年度以降の教育課程の編成について」 2022 年度末までに、幼免課程の「教科に関する科目」を「領域に関する専門的事項」へ変更する必要があるため、これに対応した抜本的カリキュラムの改訂、教員組織について、学部としての共通理解を図った。(話題提供：カリキュラム検討委員会、教務委員会)
5 回目 (8 月 6 日)	テーマ「自己点検・評価報告書について」 認証評価受審のための自己点検・評価報告書について、作業進捗状況と今後の学部としての取り組みに関して共通理解を図った。(話題提供：学部 F D 委員会、自己点検・評価委員会)
6 回目 (10 月 1 日)	テーマ「第 8 次中期総合計画について」 第 8 次中期総合計画について、学部としての共通理解を図った。

7 回目 (2 月 4 日) 8 回目 (3 月 1 日) 9 回目 (3 月 8 日)	(話題提供：学部 FD 委員会) テーマ「3 つのポリシーとアセスメントプランに基づく教育の内部質保証について」 令和 2 年度のルーブリック実施状況を踏まえて、令和 3 年度の実施率向上に向けてルーブリック評価についての理解を深めた。(話題提供：FD センター委員) テーマ「令和 3 年度 FD 実施計画について」 第 8 次中期総合計画に基づく令和 3 年度の FD 実施計画について、学部内での共通理解を図った。(話題提供：学部 FD 委員会) 第 5 回中村学園教職教育研究会を共催し、学内プロジェクト研究と教職教育に関する研究成果を発表・討議し、教職教育について意見交換を行った。(話題提供：プロジェクト研究代表者、研究会運営：教職教育委員、FD センター委員、研究委員) <u>〔補足〕</u> 令和 2 年度は COVID-19 によって計画を変更して実施した。6 月に予定されていた「3 つのポリシーの見直しと自己点検・評価の推進について」は類似するテーマの「自己点検・評価報告書について」と統合し 8 月に実施した。また、12 月に予定されていた「LSC との協働によるフォローアップ講座の状況について」は今年度のプレイスメントテストが未実施だったため実施しなかった。 なお、令和 2 年度は集合しての研修会実施および教員間での情報共有が難しかったため、コラボレーションアプリの Teams を活用して学部内の情報共有を積極的に実施した。
---	--

「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
授業科目の組織的な管理	ルーブリックの導入	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	教職(小学校)、保育職(幼稚園、保育士)用のルーブリックを導入しているが、各科目での導入については対応を要する。FD 研修会において導入実施の研修を行った。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	学科会議にて授業アンケート結果の概要を公表している。全学的にベストティーチャー賞、教員総合評価へ反映している。
教育方法の改善	アクティブラーニング(特に PBL)の推進 PBL：課題解決型授業	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☒ 実施済	COVID-19 の影響を受け、講義科目実施率 72.2% (前年比-8.2%)、演習科目実施率 95.4% (前年比-3.3%) だった。

「FD2014」はサイボウズのファイル管理－「FD センター」にあります